R Markdown cheat Sheet

learn more at rmarkdown.rstudio.com





.Rmdファイル

R Markdown (.Rmd)ファイルはあなたの研究の 記録です。このファイルには科学者たちがあな たの研究を再現し、理解するのに必要なコード と解説が盛り込まれています。



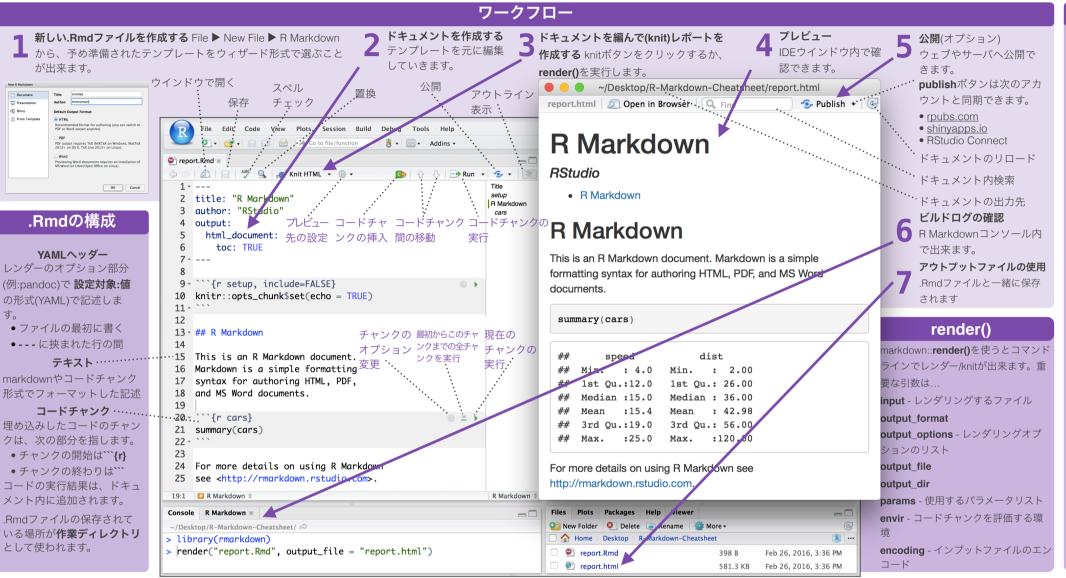
再現可能な研究

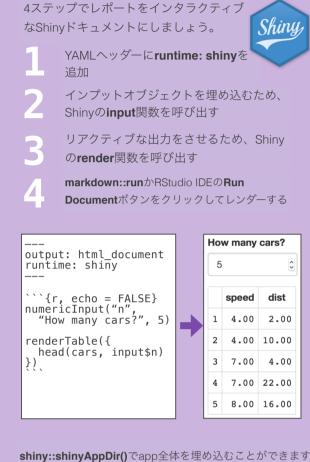
ボタンをクリックするかコマンドを打 ち込むとR Markdownファイル内でやっ た事が再実行されたり、完成したレポー トとして結果をエクスポートしたりす る事ができます。



動的なドキュメント

完成したレポートはhtml, pdf, MS Word, ODT, RTFまたはmarkdownド キュメントとして保存する事が出来 ます。htmlやpdfベースのスライド ショーとしても保存できます。





*レポートはShinyアプリとしてレンダーされます。つまり、html_document

のようにhtmlの出力フォーマットを必ず選択する必要があり、アクティブなR

パラメーター

データや値などを変えて再利用できるよう、ドキュ

インタラクティブドキュメント

コードの埋め込みとknitrシンタックス

コードチャンク

インラインコード

cache - knitする時に結果をキャッシュするか

cache.path - キャッシュを保存するディレク

child - knit時にインクルードするファイル

comment - 結果の各行のプレフィックス

collapse - 全出力を1つのブロックに折りたた

`r<code>`で結果のみを文中に出力させられます。

Built with `r getReversion()

重要なチャンクオプション

の設定 (デフォルト=FALSE)

トリ (デフォルト="cache/")

(デフォルト=NULL)

(デフォルト="##")

む (デフォルト=FALSE)

Built with 3.2.3

ションを記述します。RStudioの 🔀 アイコンでも挿入できます。

```{r}から```で囲んだ1行以上の部分

です。{}の中のrの後にチャンクオフ

(デフォルト=NULL) echo - 出力ドキュメントにコードを表示する (デフォルト=TRUE)

engine - チャンク内でのデフォルトのコード言語 (デフォルト="R")

error - ドキュメント内にエラーメッセージを表示 させる(TRUE)か、エラー発生時にレンダリング処 理を中止する(FALSE) (デフォルト=FALSE)

eval - チャンク内でコードを実行する (デフォルト=TRUE)

**dependson** - キャッシュ時のチャンクの依存関係 **fig.align** - `left`, `right`, `center`で並べ方を指定 **message** - message()関数で出力される文字を (デフォルト = `default`)

> fig.cap - 文字のキャプション (デフォルト = NULL)

```{r echo = TRUE}

getReversion()

fig.height, fig.width - プロットの縦横をインチ

getRversion()

[1] '3.2.3'

highlight - ソースコードのシンタックスハイラ tidy - 表示用にコードを整える イトの設定 (デフォルト = TRUE)

include - 実行後チャンクをドキュメントに含 めるかの設定 (デフォルト = TRUE)

グローバルオプション

knitr::opts_chunk\$set()で設定。例えば...

`{r include = FALSE} knitr::opts_chunk\$set(echo = TRUE)

results (デフォルト = `markup`)

`hold` - 全コードの後に全結果を表示

めるかの設定(デフォルト = TRUE)

warning - 警告メッセージをドキュメントに含

`asis` - 結果をそのまま

(デフォルト = FALSE)

`hide` - 結果は表示しない

表示するかの設定 (デフォルト = TRUE)

パラメータの呼び出し

にして値を呼び出します

パラメータの設定 Knit with Parameters... から値を設定するか、 render()の引数で設定する

ABC 🔍 🌌 Knit HTML 🤜 Knit to HTML Knit to PDF Knit to Word Knit with Parameters...

render("doc.Rmd",

メントをパラメータ化(例: データセット、値等)

パラメータを追加

セッションで走らされます。

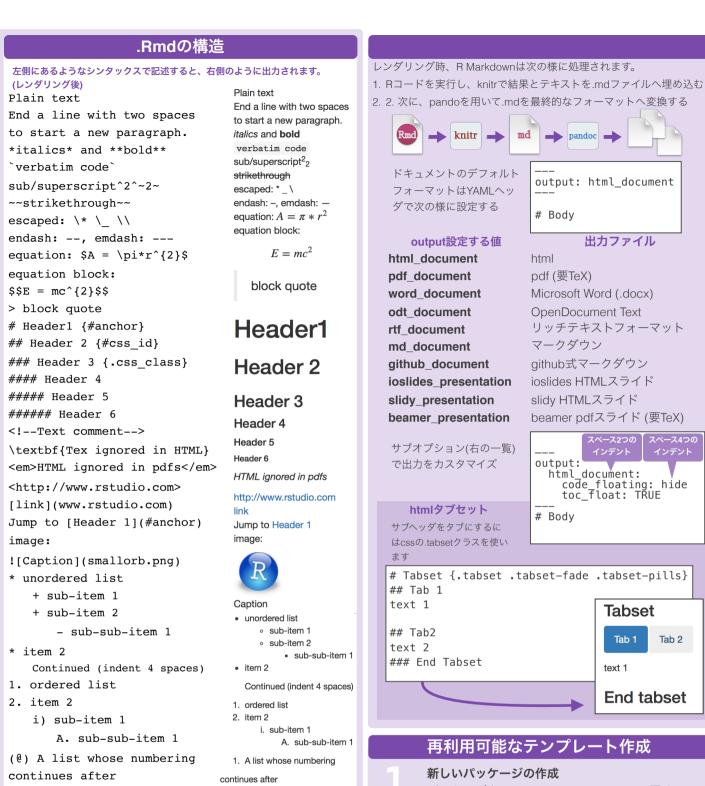
ヘッダ部分で定義できる paramsの一部としてパ ラメータを作成・設定

n: 100 d: !r Sys.Date()

params:

ヘッダで設定した値は、 Today's date params\$<name>という様 is 'r params\$d'

上記以外のオプション: R.options, aniopts, autodep, background, cache.comments, cache.lazy, cache.rebuild, cache.vars, dev, dev.args, dpi, engine.opts, engine.path, fig.asp, fig.env, fig.ext, fig.keep, params=list(n=1, d=as.Date("2015-01-01")) fig.lp, fig.path, fig.pos, fig.process, fig.retina, fig.scap, fig.show, fig.showtext, fig.subcap, interval, out.extra, out.height, out.width, prompt,



2. an interruption

Right Left Default

12 12 12

123 123 123

slide bullet 1

slide bullet 2

1 1

Cente

12

123

Definition 1

説明 サブオプション citation_package 引用を管理するためのLaTeXパッケージの指定 (natbib. biblatex. none) code foldina Rコードの折りたたみ表示を設定 ("none", "hide", "show") Χ colortheme Beamerのカラーテーマを設定 css ドキュメントの体裁を定義するCSSファイルの指定 dev プロットの出力に使うグラフィックデバイスの指定 (例: "png") XX duration スライドのフッターにカウントダウンタイマーを設置 (分単位) fig_caption キャプション付きで図をレンダリングする設定 $X \times X \times X$ fig_height, fig_width 図のデフォルトの高さ/幅を設定 (インチ単位) \times \times \times \times \times \times \times \times highlight シンタックスハイライトの設定 ("tango", "pygments", "kate", "zenburn", "texmate") X X X includes ドキュメントに取り込むファイルの指定 (in header, before body, after body) X X incremental 箇条書きを一度に表示するか、クリック毎に表示するかの設定 keep md knitrの処理で出力される.mdファイルを残す $X \times X$ keep_tex knitrの処理で出力される.texファイルを残す Χ latex engine LaTeXをレンダーするためのエンジンを指定 ("pdflatex", "xelatex", "lualatex") Χ lib_dir 依存関係にあるファイルがあるディレクトリの指定 (Bootstrap, MathJax等)X mathjax MathJaxレンダーの場所を指定(ローカル/リモートのURL両方指定可能) md_extensions R Markdownへ追加/削除する拡張を定義 \times \times \times \times \times \times \times \times number sections ヘッダに章番号を追加 X X pandoc args Pandocへ渡すオプション引数の設定 \times \times \times \times \times \times \times \times preserve_yaml 最終的なドキュメントにYAMLフロントマターを残す reference_docx docxを出力する時に形式をコピーするための元ファイル Χ self_contained ドキュメントに依存するものを埋め込む slide level 1ページに分割する見出しの最小レベルを設定 smaller フォントの大きさが小さいものを使用する smart クオートをカーリーにする、ダッシュをemダッシュにする等の処理を行う X template レンダリングに使うPandocテンプレート ХХ theme BootswatchとBeamerで使うテーマ Χ toc ドキュメントの始めに見出しを追加 $X \times X$ $X \times X$ toc_depth 目次へ含める見出しのレベルを設定 $X \times X$ X X Xtoc float メインコンテンツの右上に見出しのフロートテーブルを追加する Χ reference odt, transition, variant, widescreen

上記以外のオプション: extra_dependencies, fig_crop, fig_retina, font_adjustment, font_theme, footer, logo, html_preview,

再利用可能なテンプレート作成

output: html document

出力ファイル

Body

pdf (要TeX)

マークダウン

output:

Body

Microsoft Word (.docx)

リッチテキストフォーマット

beamer pdfスライド (要TeX)

code_floating: hide toc_float: TRUE

Tabset

Tab 1

End tabset

text 1

Tab 2

OpenDocument Text

qithub式マークダウン

ioslides HTMLスライド

html document:

slidy HTMLスライド

html

新しいパッケージの作成

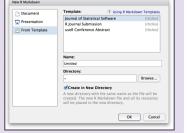
パッケージをinst/rmarkdown/templatesへ置く

ディレクトリ内で次のファイルを作成する

パッケージをインストール

File ▶ New File ▶ R Markdownと辿 るとテンプレート が出来上がってい ます

template.yaml name: My Template



xtableでテーブル化 4 2.283 62

テーブル

Rのデータをテーブル化するいくつかの方法

3.60 79.00

1.80 54.00

3.33 74.00

2.28 62.00

YAMLを用いたレンダーオプションの設定

data <- faithful[1:4,]</pre> ```{r results = "asis"} knitr::kable(data, caption = "kableでテーブル化")

```{r results = "asis"}

title = "stargazerでテーブル化")

3

kableでテーブル化

3.600

1.800

3.333

2.283

print(xtable::xtable(data, caption = "xtableでテーブル化"), type = "html", html.table.attributes = "border=0"))

ここでの例以外にも `{r results = "asis"} stargazer::stargazer(data, type = "html",

stargazer, xtable  $\succeq$ knitrの使い方があり ます

stargazerでテーブル化

1 3.600

2 1.800

3 3.333

eruptionswaiting

54

74

### 参考・引用文献

Χ

ХХ

Χ

X X X

X X X

ХХ

ХХ

ХХ

ХХ

ХХ

XX

Χ

Χ

Χ

XX

X X X X X

X X X X X

参考・引用文献の管理は次の形式が対応しています .bib, .bibtex, .copac, .enl, .json, .medline, .mods, .ris, .wos, .xml

#### 参考文献ファイルの設定

YAMLヘッダに記述します。必要であればCSL1.0スタイ ルファイルも設定します。

> bibliography: refs.bib csl: style.csl

### 引用キーをテキスト内で使う

Smith cited [@smith04]. Smith cited without author [-@smith04]. @smith04 cited in line.

#### レンダー

参考文献はドキュメントの最後に追加されます。

Smith cited (Joe Smith 2004). Smith cited without author (2004). Joe Smith (2004) cited in line.

## • template.yaml (下記参照) • skelton.Rmd (テンプレート)

• 必要なその他ファイル



### (>- to have bullets appear on click) A footnote [^1] horizontal rule/slide break [^1]: Here is the footnote. A footnote Here is the footnote. ←

Center

123

(>- to have bullets appear on click)

horizontal rule/slide break:

123

(@) an interruption

Right | Left | Default |

123

- slide bullet 1

- slide bullet 2

: Definition 1

Term 1

123

\*\*\*